

2021～2022 年度テーマ “プラスワンからオンリーワンへ”

一般財団法人 東京都スキー連盟
会 長 岡部 直士

前年度に引き続き 2021～2022 年度も上記テーマの基“会員ファーストの為の組織・各種事業、そしてジュニア育成を始め、スキー界の発展への体制づくり”を目指していきたいと思います。継続的なコロナ禍でのスタートではありますが、WITH コロナの対応の基、新しい生活様式、新しい対応が求められており、様々な状況を想定してのスタートとなりました。

本年度は理事改選の年度であり、その結果 10 名という最少人数でのスタートとなってしまいました。各理事の担当は決めさせて頂きましたが、各理事を各部に固定するのではなく、各部の垣根を取り払い、柔軟に対応させて頂く事と致しました。ご理解のほど宜しくお願い致します。

テーマにつきましても昨年度に引き続き“プラスワンからオンリーワンへ”を掲げさせて頂きます。すべての事業は「誰のため」「何のために」を明確にすることから始まります。具体的に事業を実施するにあたり、継続されている各種事業にも「価値のあるプラスワン」を加味し、その結果「オンリーワン」を目指し成長させていく事が重要であると考えます。以上を具現化するために、以下の全体事業と重点事業に取り組んで参ります。

☆全体事業として

- (1) コロナ禍での各種事業・研修会等への安全な対応
- (2) スポーツ文化の普及・発展とその中での連盟組織の明確な役割の構築
- (3) 問題解決の為に新たに各種プロジェクトチームの立ち上げ
 - ① 公益目的支出償還年数の見直し検討及び提案
 - ② 都連会館建設の実現性への具体的な検討及び提案
 - ③ ガバナンス・コンプライアンスの強化・徹底の為に組織変革の提案
- (4) SDGs への具体的な取り組み（持続可能な 17 の目標）
- (5) 全日本スキー連盟との連携強化

☆重点事業として

- (1) 各部専門員のスキルアップへの継続的な取り組み
- (2) 強化選手（競技関係及びナショナルデモ）の育成への具体的な取り組み
- (3) 生涯スポーツの明確な位置づけと普及への具体的な取り組み
- (4) ジュニア育成事業(TOKYO YUKIDS)への具体的な取り組み
- (5) マーケティングの強化と具体的な取り組み

以上を昨年度に引き続き、具現化すべく努力して参ります。

(具体的な取り組み及び内容)

☆全体事業

- (1) コロナ禍での各事業・研修会等への安全な対応
都連としての感染防止の為のガイドライン作成し対策徹底を実施している。
- (2) スポーツ文化の普及・発展とその中での連盟組織の明確な役割の構築
各事業が往々にしてありがちな継続事業に対しての消的な取り組みから、スポーツ文化に関わっていることへの自覚と共に各事業の目的を明確化し、理事の方々、専門員の方々とも様々な角度から議論していく。また、会員増に繋がる取り組みを具体的に進める。
- (3) 問題解決の為に新たに各種ワーキンググループの立ち上げ
 - ① 公益目的支出償還年数の見直し検討及び提案
 - ② 都連会館建設の実現性への具体的な検討及び提案
 - ③ ガバナンス・コンプライアンスの強化・徹底の為に組織変革の提案今の時代に合った考え方、対応の仕方などを理事会及び委員会と共に模索していく。
- (4) SDGs への具体的な取り組み（持続可能な開発目標）
スノースポーツ団体として、単にスキー、スノーボードに係わりを持つだけではなく、いま世界で起こっている問題や課題、今後世界がどういった方向に進んでいくか等全体像を把握し、それぞれがお互いに繋がっているという感覚を持たなくてはならないと思う。その為のSDGsに組み込み、具体的には17の目標と169のターゲットを理解し、東京オリンピック・パラリンピックの一つの目標にもなったSDGsの目標を各種事業に織り込んでいく。
- (5) 全日本スキー連盟との連携強化
全日本スキー連盟への都連出向理事、評議員、専門員を通して連携ハードルを低くするよう努力する。情報の共有の基の相互理解に努め、双方からのアプローチの在り方を検討したいと思う。

☆重点事業

- (1) 各部専門員のスキルアップへの継続的な取り組み
昨年度に引き続き、研修会終了後のトレーニングを実施しスキルアップを目指す。また、会員サービス向上に繋がる技術力向上のためのトレーニングを実施する。
- (2) 強化選手（競技関係及びナショナルデモ）の育成への具体的な取り組み
ナショナルデモ排出の為に SAJ デモの育成強化を図り、具体的には岡田利修氏をコーチに迎えた継続的なトレーニングを実施。また、全日本技術戦でのパフォーマンス向上を目的とした合宿を実施する予定。競技関係は強化指定選手育成強化の為、技術力向上のセミナー（技術と理論）を実施し、現役の冬季オリンピックアルペン競技者：湯浅直樹選手をコーチに迎える予定。
- (3) 生涯スポーツの明確な位置づけと普及への具体的な取り組み
現在若い現役世代も何れは年齢を重ね、競うスキーから安全で楽しいスキーへと移行していく。指導員研修会等においてスノースポーツを継続することの楽しさを伝授し、マスターズ技術戦及び競技参加者についても安全で配慮のきいた運営を心掛け、長く参加取り組みが出来るよう環境を整えていく。
- (4) ジュニア育成事業（TOKYO YUKIDS）及び競技への具体的な取り組み
Tokyo Yukids プロジェクトを立ち上げ“子供が主役—チルドレン・ファースト”の具現化をしていく。そのコンセプトは①スノースポーツから子供の発見を導く ②自律 ③マナーと感謝 の三つであり、そこから人間力を育むための取り組みをし、そして目標設定を明確化すると共にその目標に対してのスケジュールを明確化し、その中で、試合及びトレーニングの割合を考え、陸上トレーニング、雪上トレーニングの質を可能な限り高めていく。
- (5) マーケティングの強化と具体的な取り組み
都連を支えて頂いている様々な企業の方々や賛助会員の方々とのコミュニケーションや関係構築を通して、よりよい都連活動に繋げていくためにマーケティングプログラムの整理、見直しを進めていく。これまで大会への協賛や物品提供によるご協力、刊行物の広告協賛、個々の賛助会員としてのご支援等をいただいておりますが、この輪をさらに大きなものとするためにも東京都スキー連盟の価値、ブランディング向上に向けて都民、会員へのアプローチ、社会貢献等も重要な取り組みと位置づけ、様々な活動を検討、推進していく。

今後ともご理解、ご協力を宜しくお願いいたします。